

平成23年度

うるま市の補助金等に関する審査結果について

平成23年10月

うるま市補助金審査委員会

第1 審査の対象と方法

1 審査の対象

今回は審査対象部署が一巡したこともあり、すべての部署の補助金等を対象に、事務局が調製したリストの中から各委員が2点をピックアップし、委員会で最終選定した10件の補助金等を対象に審査した。ただし、以下のものを除く。

- ・出席者負担金
- ・法令（市条例は除く）に定めのある負担金
- ・市長会、中部市町村会で承認された負担金

2 審査方法

審査結果を新年度の予算編成に反映させるため、10月までに審査を終えることにした。

審査は個別の補助金等について、事前に事務事業評価票（補助金交付型）、事業報告書、決算書等の資料の提出を求め、担当部署ごとにヒアリングを実施し以下の要領で行った。

- ①「うるま市補助金制度に関する指針」に定める「交付基準」を踏まえ評価を行い、「見直し基準」により方向性を判断する。
- ②審査対象補助金を1回あたり3～5件を目途に審査する。
- ③審査では、補助金審査票（事務事業評価票・補助金交付型）及び関連資料を基に担当課ヒアリングを実施する。ヒアリングは、うるま市補助金制度に関する指針に示した補助金交付基準（1. 事業の公共性、2. 事業の効果性（有効性・効率性・適時性）、3. 団体等の適格性など）に基づき、市民の視点から補助の必要性、額の妥当性等を検証する。
- ④上記審査に基づき、委員会としての総合評価（A、B、C、D）を決定し、その理由や意見、見直しの方向性等を取りまとめる。

第2 審査結果概要

1 総括

うるま市における補助金等のあり方について、市民の目線で審査を行うために当委員会が設置され、今回で5度目の審査となった。市民の立場から補助金等を確認していくことは行政改革として大変重要なことであり、補助金等が設定された趣旨や、時代の流れの中で本当に相応しいのか、常に検証していく必要がある。

今回、各委員が2点をピックアップした補助金等の中から、委員会で最終的に選定し、担当部署の事務事業評価票を基にヒアリングを行い、「うるま市補助金制度に関する指針（平成18年11月策定）」（以下、「指針」）に基づいて「本当に必要な補助金か」「額は妥当か」「運営上の課題はないか」の視点から審査を行った。審査の結果として、まず始めに総括的な指摘事項として以下のとおり提言する。

(1) 市民との協働

限られた人・モノ・金・情報・時間などの資源において、今後、市民との協働が益々重要となってくる。NPO やボランティア、自治会との連携を図るのは当然のことであるが、そのような団体を芽だし、育て、フォローしていく長期的な事業計画、あるいは、市民へ活躍の場を移していくような補助のあり方、事業のあり方、展開を図られたい。

また、市民との協働を深めるには様々なツールを活用し、積極的な情報公開に努めることも重要となる。行政から積極的にアプローチするプッシュ型の情報提供・活動への転換を図られたい。

(2) PDCAサイクルの確立

補助金等の目的を達成し、継続的な事業とするためには、PDCAサイクルの確立が必要であるが、まだ十分に機能していない。望ましい将来像を描き具体的な計画を立て、計画に沿って業務を遂行し、実績を評価検証し、次の改善策を立て実行する必要がある。本市においてはC（評価・検証）、A（改善策の実行）の部分が制度化されておらず、制度の確立が求められる。

(3) 戦略的な予算配分

市民にとって必要な事業、疑問がある事業、予算削減すべき事業など戦略的な予算配分が行われているのか疑問に感じる。本当に必要な事業、削減すべき事業などメリハリをつけるためにも、予算の一律カットを見直す必要がある。

(4) 改善事項の確実な実施

前回審査での指摘事項があったにもかかわらず、改善の様子が見られないものもあった。これまで行ってきた審査対象補助金等に対する審査会の意見がどのように反映されたか、改善されたか確認する必要がある。担当部署は補助金審査委員会の意見を真摯に受け止めて、意識改革を図るとともに、確実に改善をしていくことが大事である。

(5) まとめ

今回の審査は、一巡した上に、委員がピックアップしたこともあり、2回目の審査となる補助金等があったが、指摘事項の改善が図られているものと、そうでないものがあった。委員会の評価を次年度の予算に反映させたい思いがあり、その対応を求めたい。また、戦略的な補助金事業、事業施策を行う必要性を感じており、予算の一律カットは市民のニーズに応えられるのか疑問である。見直しを検討されたい。

2 総合評価内訳・・・・・・・・・・・・・・・・

- A：更に充実させる方向で見直し 1件
- B：現状のまま継続 5件
- C：効率化・コスト削減の方向で見直し 3件
- D：縮小・廃止を前提とした見直し 0件
- 外：評価なし 1件

第3 個別審査結果

石川西土地区画整理組合換地処分事業補助金（区画整理課）・・・・・・・・・・

「石川西土地区画整理組合換地処分事業補助金」の評価のまとめ

総合評価

B：現状のまま継続

具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

健全な市街地形成を目指す必要があるが、これ以上の財政負担を避けるには、予定通りに事業を進め、早めの完了に努めることが重要である。

悪臭問題等の大きな課題はあるが、保留地処分の進展を図るには更なるPR方法や販促活動を活性化する必要があり、改善を図りたい。

まつり・イベント運営補助金（商工観光課）・・・・・・・・・・

「うるま祭り補助金」の評価のまとめ

総合評価

B：現状のまま継続

具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

マナー化を防ぎ、地域の魅力ある祭りにするために、市民アンケートや企画委員会などを通じて、会場や内容、アイデアなど様々な観点から検討し、発展性を持たせる必要がある。

また、市内業者や市民ボランティアによるゴミの収集、分別の取り組みを高く評価するとともに、今後も商工会や市民団体、NPOなどと協働で運営し、市民主体の祭りにしていく必要がある。市は後方支援を担いつつ、主体性を市民団体などへ移されたい。

「うるま市エイサーまつり補助金」の評価のまとめ

総合評価

B：現状のまま継続

具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

エイサーを地域資源の目玉にするならば、まつりを集約し大きく特色あるものとして開催しても良い。誘客効果が図れるまつりへの転換を検討されたい。

青年連合会や青年会を見守りつつ育て、若い青年の発想、熱意が活かせる体制を作り主体性を移されたい。

うるま市闘牛連合会補助金（商工観光課）・・・・・・・・・・・・・・・・

「うるま市闘牛連合会補助金」の評価のまとめ

総合評価

C：効率化・コスト削減の方向で見直し

具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

闘牛候補牛審査会における用途を明確にする必要がある。

闘牛は市の観光資源としての役割が期待され、闘牛大会を活用し観光物産と地域活性化に結びつく予算の活用や取り組みを検討されたい。

土地改良事務連合会及び土地改良区合同事務所補助金（農水産整備課）・・・・

「土地改良事務連合会及び土地改良区合同事務所補助金」の評価のまとめ

総合評価

C：効率化・コスト削減の方向で見直し

具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

組合の健全な経営体制を確立させ、早期の自立が図られるよう努めていただきたい。

遊休農地の解消、収益性の拡大を図るとともに、物流や物産など他機関との連携による総合的な農業振興の施策に取り組んでいただきたい。

これまでの土地改良事業は農家の必要性から計画されたものだとは思えず、遊休地や後継者不足などの問題が出ている。今後は地域性や収益性などしっかり見通しを立てたうえで事業の執行を考えてほしい。

悪臭緩和剤等購入補助金（農政課）・・・・・・・・・・・・・・・・

「悪臭緩和剤等購入補助金」の評価のまとめ

総合評価

A：さらに充実させる方向で見直し

具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

優良農家の表彰やお墨付きを与えるなど、悪臭対策に努力している農家がメリットを受けるような制度の構築を検討されたい。

悪臭の中で生活せざるを得ない市民のことを考えると、予算を増額してでも更なる悪臭改善を図る必要がある。補助率アップや申請手続きの簡素化、指導・周知に努めていただきたい。

市社会福祉協議会運営補助金（生活福祉課）・・・・・・・・・・・・・・・・

「市社会福祉協議会運営補助金」の評価のまとめ

総合評価

C：効率化・コスト削減の方向で見直し

具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

予算に対する人件費の割合が高く、事業費の割合が低い。この件は、前回審査での指摘から、改善されている様には見られない。更なる事業の効率化、職員数や給与の適正化、財政的自立を目指した事業型社協への転換を推進し、歳出バランスの適正化を図る必要がある。

歳出バランスの適正化については、その改善策やアイデアを広く募り、各種事業の推進、あるいは課題解決、市民協働に結びつけるなど、幅広い展開も必要と考える。

福祉事業は重要であることは認識しているが、担当部署においては委員会の意見を真摯に受け止め、対応していただきたい。

法人保育園運営助成金（保育課）・・・・・・・・・・・・・・・・

「法人保育所運営助成金」の評価のまとめ

総合評価

B：現状のまま継続

具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

市の交付要綱に基づいて適正に執行されており、問題ない。限られた予算の中でバランスのとれた補助を行い、今後も福祉の向上に取り組んでいただきたい。

市体育協会補助金（生涯スポーツ課）・・・・・・・・・・・・・・・・

「市体育協会補助金」の評価のまとめ

総合評価

B：現状のまま継続

具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

予算不足をチャリティーイベント等の自助努力で補っていかうという姿勢を高く評価する。スポーツ振興、青少年健全育成、市代表選手への助成は継続する必要がある、補助金の削減は適当でない。

補助金審査で「現状のまま継続」と評価しても、枠配分による予算編成において一律カットされる場合がある。単純に一律カットするのではなく、補助金審査の結果を考慮していただきたい。

地域活動支援助成金（企画課）・・・・・・・・・・・・・・・・

「地域活動支援助成金」の評価のまとめ

総合評価

新規事業のため実績がなく評価しない

具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

協働のまちづくりを行うためには非常に意義深い事業だと評価する。広報周知活動を継続的に行い、参加団体を増やし、趣旨の浸透を図ることが重要である。

担当部署には立ち上げ段階の団体や組織が脆弱な団体などのフォローも積極的に行っていただき、団体育成にも力を入れていただきたい。